

河川には、治水や利水などの役割のほかに、水辺に住む動植物を育むという役割も担っています。そのため美しい水資源を守っていくことが、豊かな自然環境を守ることに繋がっているのです。

串間の河川の水質変化

串間市では、市内15カ所河川の水質を測定しています。平成21年度までの※BODをグラフで紹介します。

平成21年度の数値で天神川がBOD 2・3 mg/ℓと、環境基準値（BOD 2 mg/ℓ）を若干上回っていますが、そのほかのすべての観測地では下回り、近年、水質は改善傾向にあります。市民の皆さんの意識の変化の表れだと思えます。しかし、平成21年度末現在の串間市の生活排水処理率は35%と低く、生活排水が十分に処理されていない状況です。

河川が汚れる主な原因

かつて、河川汚濁の原因は工場の排水などでしたが、現在では生活排水による汚染が大きな問題となっています。水質汚濁の進行は、わたしたちの健康や河川周辺に生きる動植物たちに悪影響を与えることがあります。また、楽しみながら自然環境を学習する場の一つが消失してしまうことにもなります。

わたしたちができること

美しい河川を守るためにわたしたちができることは汚れた生活排水を河川に流さないこと。汲み取り処理や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切り替え、

または公共下水道・農業集落排水への接続によって排水の汚れを8割以上カットできます。汲み取りや単独処理浄化槽で処理している方も、皿やフライパンの油はふきとってそのまま流さない、米のとぎ汁を庭の花にかけるといった工夫をすることが河川の浄化につながります。

単独処理浄化槽と合併処理浄化槽の違い

単独処理浄化槽は、トイレのみの汚水を浄化することができる装置で、昭和44年ごろから設置されてきました。合併処理浄化槽は、トイレに加え、台所、洗濯、ふろなどすべての雑排水を浄化することができます。平成13年ごろから、合併処理浄化槽が用いられています。単独処理浄化槽で処理されない生活雑排水は、生活排水全体の有機汚濁（水を汚濁させる汚れ分BOD）のうち7割以上を占め

るといわれています。串間市では、合併処理浄化槽の設置を推進するために、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切り替え補助金を平成22年度に設けました。合併処理浄化槽設置補助金に加え、10万円の上乗せ補助が受けられる制度で、23年度も継続を予定しています。ご相談は市民生活課（内線254）まで。この機会にどうぞご利用ください。

※BOD（生物化学的酸素要求量）は水の汚濁指標。微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量。この値が大きいほど、水が汚れていることになりま。

※COD（化学的酸素要求量）は水中の有機物を微生物の代わりに化学物質で酸化剤の量を酸素量に換算したもののBODと同じくこの値が大きいほど、水が汚れていることになりま。



ふるさとにいつまでも美しい川を

ふだんの暮らしの中での環境への配慮が、美しい川を守ることにつながります。

【各河川の水質(BOD)経年変化】

